

## 経営比較分析表（令和元年度決算）

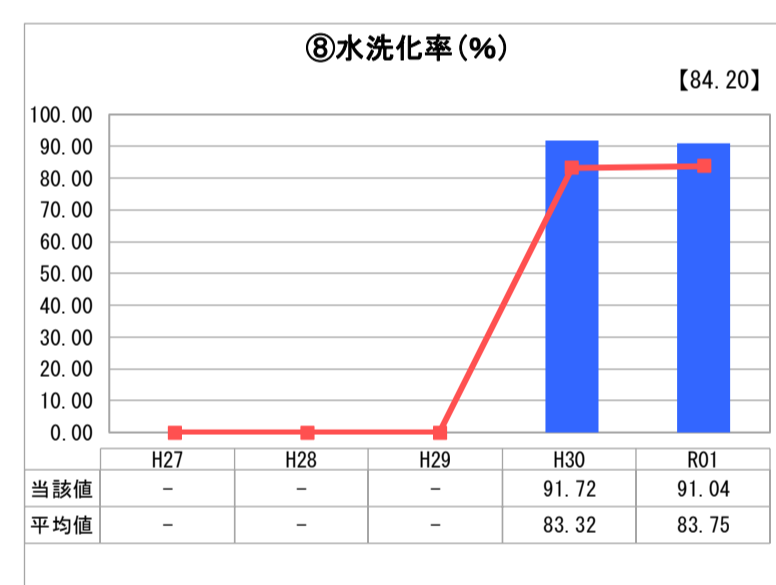
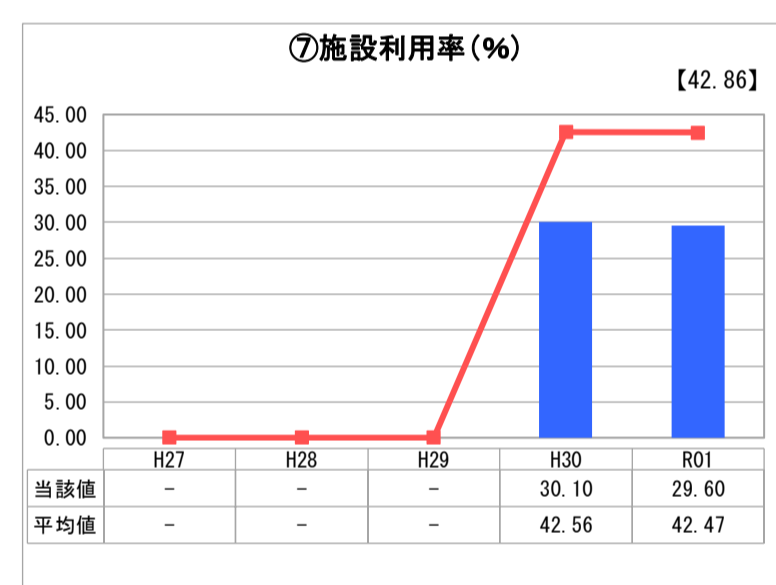
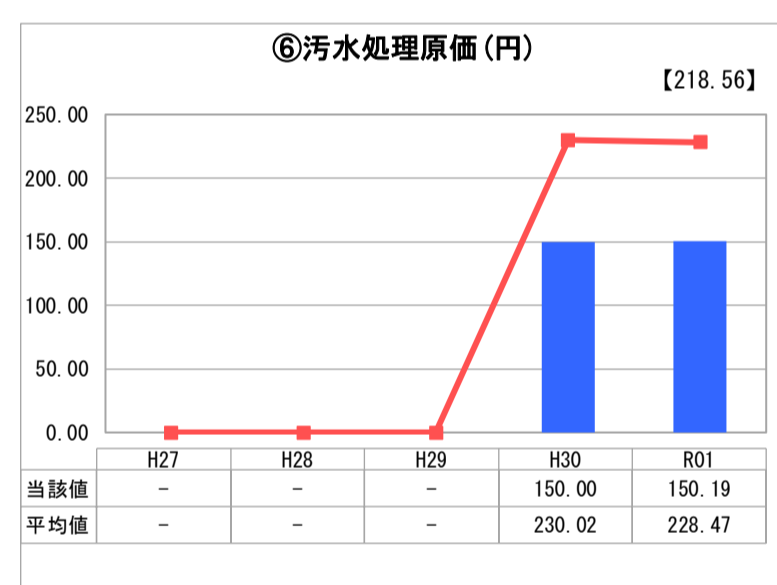
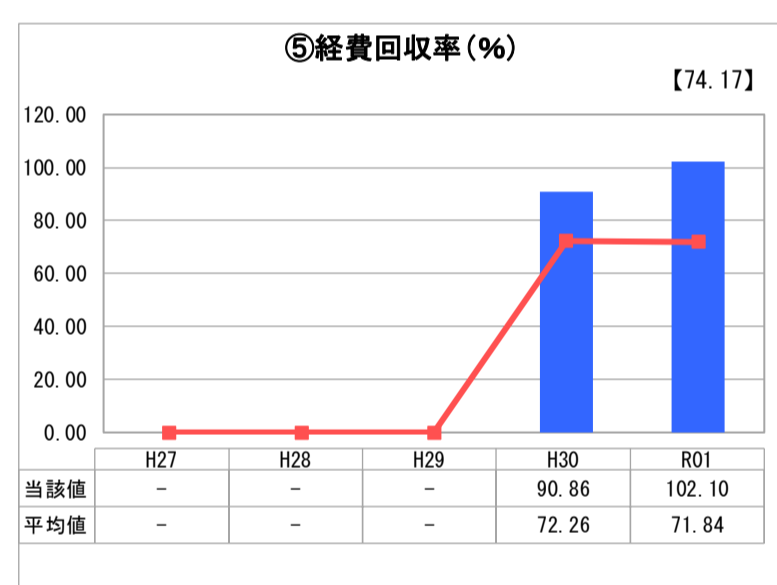
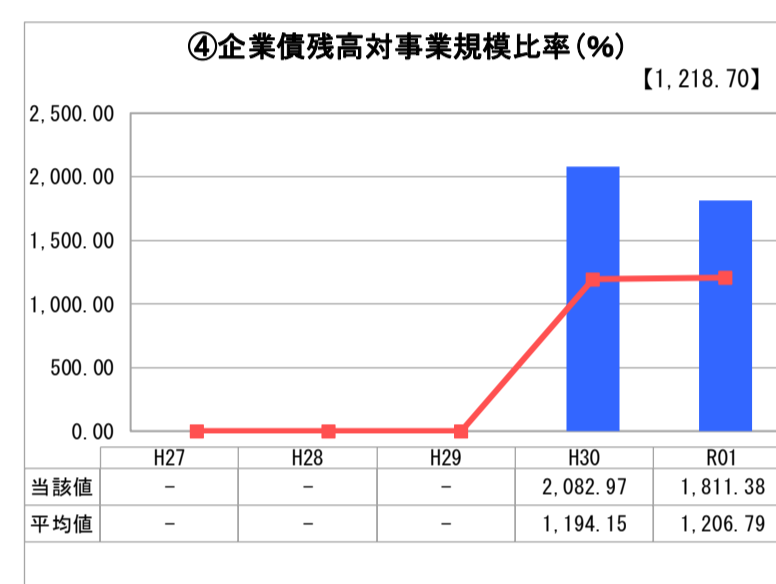
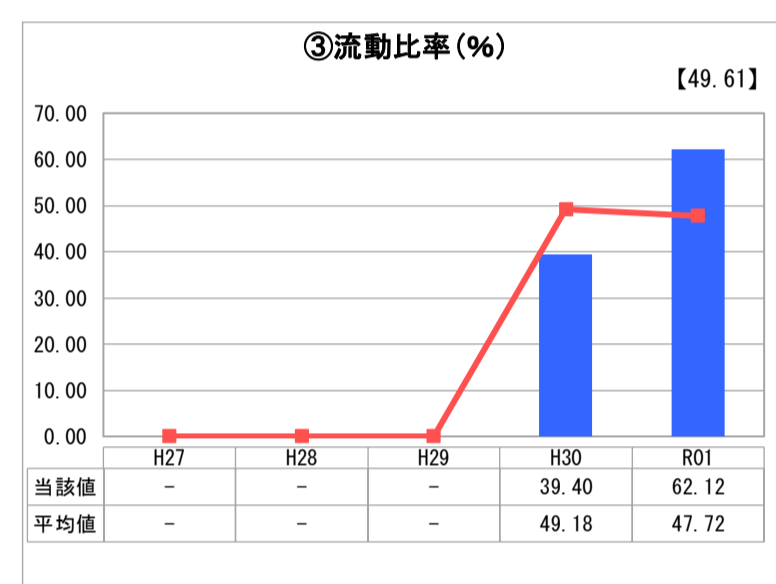
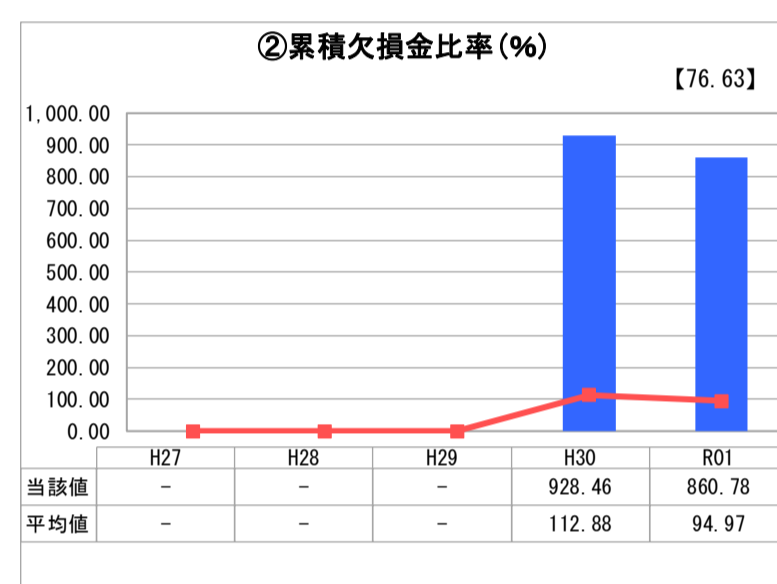
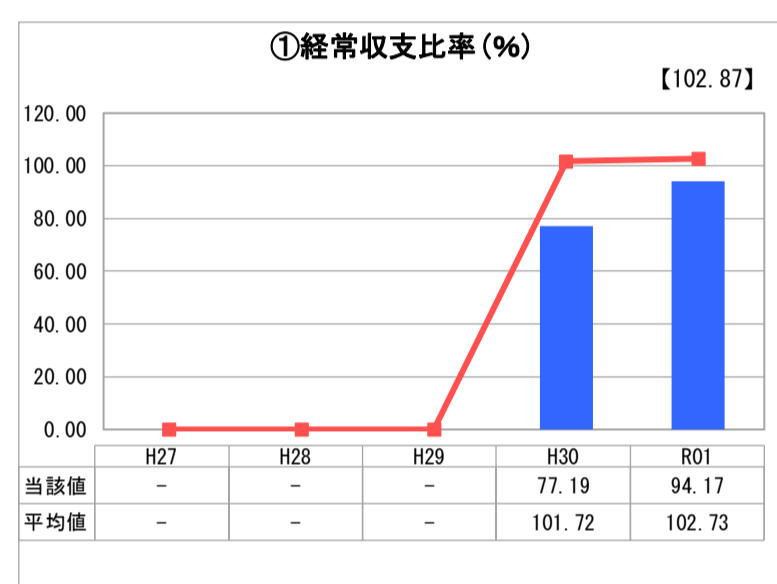
鳥取県 江府町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	35.12	38.48	100.00	3,696

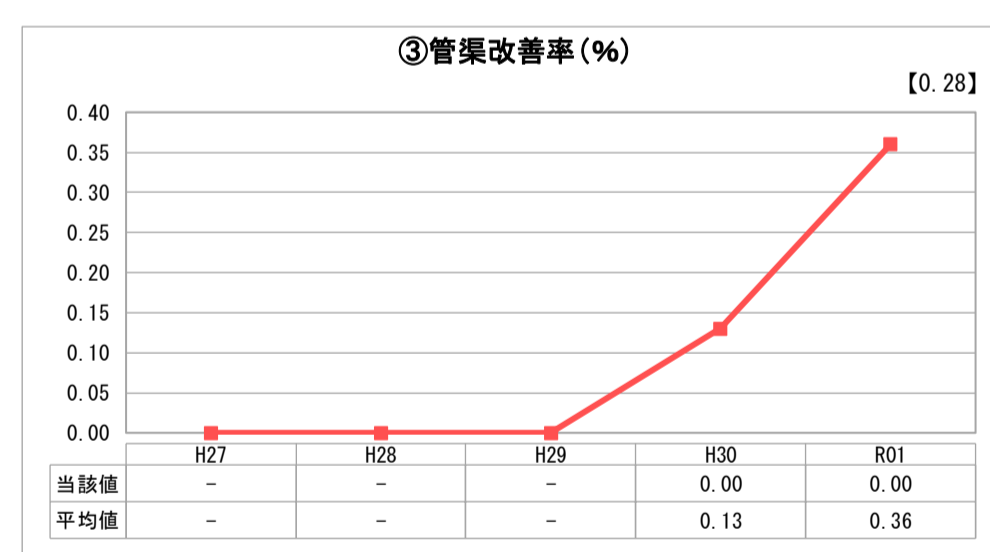
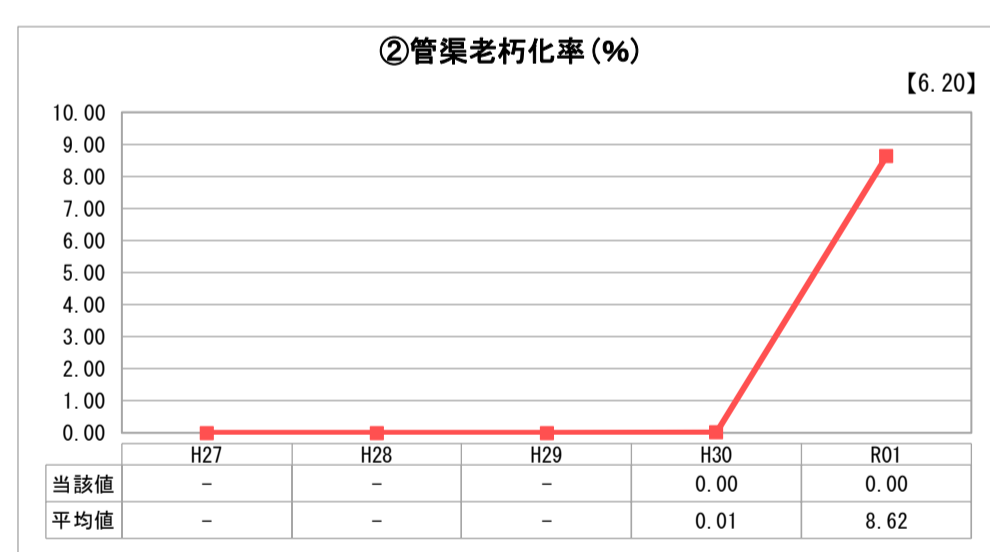
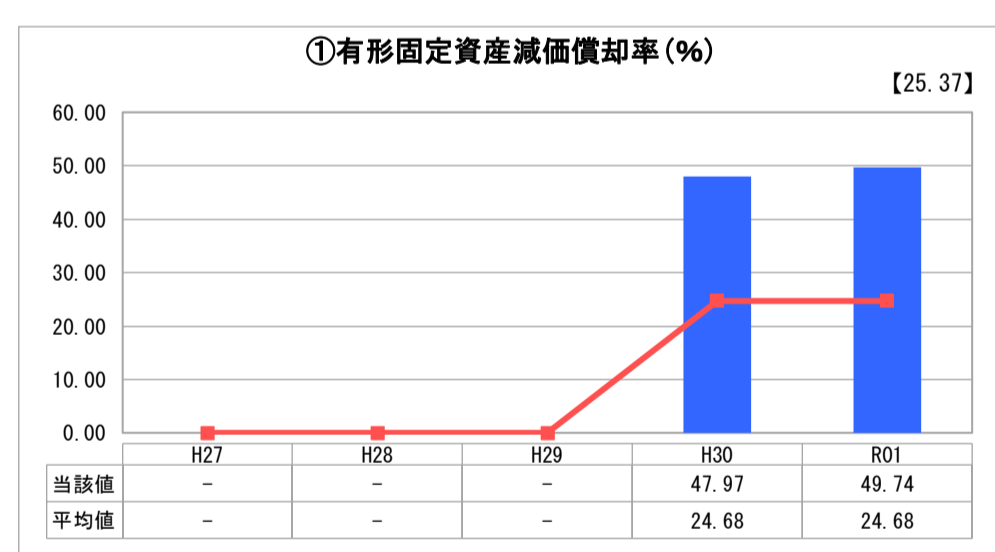
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,849	124.52	22.88
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,082	0.43	2,516.28

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
□	令和元年度全国平均

### 1. 経営の健全性・効率性



### 2. 老朽化の状況



### 分析欄

#### 1. 経営の健全性・効率性について

- ・経常収支比率  
経常経費のうち、減価償却費の割合が56.7%と負担が大き。R1.4月から使用料の改定を行ない前年度からは改善した。
- ・累積欠損金比率  
過去の設備投資に係る負担が大き。また、維持管理経費が増加する中、計画的な維持修繕を行なうことで、施設の長寿命化を図る必要がある。
- ・流動比率  
流動負債については、そのほとんどが企業債の償還である。償還にあたり一般会計からの繰入金等でまかなっているのが現状である。
- ・企業債残高  
類似団体と比較し、比率としては高くなっている。短期間のうちに整備を行なった結果であり、今後の更新等は財政状況を勘案し平準的に行なっていく必要があると考える。
- ・経費回収率  
R1.4月から料金改定を行ない改善したが、今後の人口減少により使用料の減収が予想されることから、汚水処理費についても費用の削減が必要と考える。
- ・汚水処理原価  
類似団体と比較し低い状況にある。
- ・施設利用率  
現在、3割程度であるが令和3年4月に、施設の統合を行っており、利用率は上昇するものと思われる。
- ・水洗化率  
約9割と高い状況にあるが、100%目指して更なる接続への取り組みが必要である。

#### 2. 老朽化の状況について

- ・有形固定資産償却率  
償却年数の短い処理場に係る割合が大きく、他団体と比べ高い率となっている。順次財政状況を勘案し、計画的に更新、長寿命化を行なっていく必要がある。また、施設の統廃合も検討する必要がある。
- ・管渠老朽化率、管渠改善率  
対応年数を超えた管渠については現在ないが、今後短期間で整備を行なっているので計画的に更新、長寿命化等を行ない経営に負担が掛からないように計画的に行なうことが重要であると考える。

#### 全体総括

R1.4月に料金改定を行なったが、今後、人口減少が続く中、料金収入の増加は見込めない。よって、施設整備の統廃合、長寿命化などで更なる経費の削減を行ない経営改善を一層進めていかなければならない。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。